

Report on "El Salvador"

—エルサルバドルからの声 パート2—

■2007年8月にイタリアで行われた Tonalestate (国際文化平和フォーラム) にて、現地エルサルバドルのカウンターパート FUNDIPRO (見捨てられた児童のための援助協会) のスタッフとその協力者の学生たちに、日本人学生がインタビューしました。



Q1.子どもたちへの昼食サービスについて教えてください。

■ みつばち保育所周辺の貧困地区マルグリータは不衛生な環境にあり、また大半の子どもたちは、歯を磨く、顔を洗う、手を洗うといった基本的な生活習慣を知りません。そのため、病気や不衛生な状況から身を守ることが難しい状況です。

保育所では、子どもからお年寄りを対象にした医療巡回サービスを定期的に行い、その中で訪れた子どもたちに昼食サービスも同時に行っています。子どもたちが清潔なテーブルの上で、おいしく栄養のある食事を取れるように毎回準備しています。この昼食サービスは食事の提供だけでなく、食前の手洗い、スプーンやフォークの使い方、テーブルマナー、また食後に歯を磨くことなど、基本的な生活習慣を直接子どもたちに指導することができます。そして、テーブルを囲み、



生活指導の様子 (スタッフは手を洗う大切さを説明します)

落ち着いて共に食事をする楽しさを子どもたちが味わい、他人とのかかわり方を学ぶ良い機会となっています。しかし、子どもたちが食事の席にきちんと座れるまでに時間がかかります。毎日お腹を空かせた兄弟の中で育ち、食べ物が他の人に取られてしまうのではないかと脅迫観念にとらわれ自分の体でお皿を隠してしまう子や、隣の子どもの食べ物まで取ってしまい、すぐ喧嘩をしてしまう子もいます。このような環境の中で私たちスタッフは、子どもたちが安全で健康的な生活ができる力や知識が養われるように、また安定した人間関係が築けるように、日々希望を持ちながらこの活動を進めています。



昼食サービスの様子

子どもたちはこの時間を楽しみにしています。

(次号に続く)

取材: The Others

■オリーブジャパン文化講演会報告■

カシミール問題

(KASHMIR CONFLICT)

2007年11月24日(土) 10:00-12:00

ナディアパーク・デザインセンタービル9F
名古屋青少年文化センター・第2研修室にて

ーフィリップ・マッテュ神父様を招いてー



私はこの講演を聴くまでカシミール問題についてよく理解していませんでした。「カシミール」と聞いてすぐ思い起こすことは、あの柔らかい手触りの「カシミヤセーター」くらいです。しかし、この地域は長い間、インドとパキスタンの対立によって大変な経験を強いられていることを知りました。

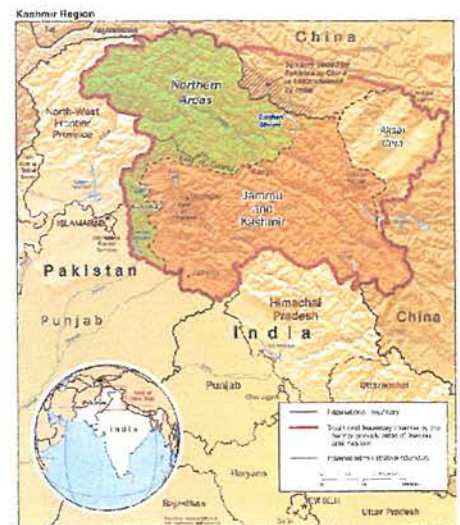
1947年にイギリスから独立したインドとパキスタンは、当初から対立を続けており、1948年には北西部のカシミール地方の領有をめぐる武力衝突しました(第1次インド・パキスタン戦争)。その後、国連の仲介によって停戦に至りましたが、カシミール地方は分割され、さらに1965年には再びカシミール地方をめぐる戦争が行われました(第2次印・パ戦争)。このような過酷な状況の中で何よりも悲惨なことは、当のカシミールに住む人々の思いが常に無視され続けているということです。その後も戦争は続き、1971年にはパキスタン内部において東西間の亀裂が深まり、パキスタン、バングラデシュと分離独立することになりました。このような対立の中で実際に戦場となったのは予期できない紛争やテロの恐怖に怯えながら暮らす一般市民の土地でした。そこには活気に溢れた市場、学校、病院など、人々の暮らしがありますが、戦争はそのような場所を一気に破壊してしまいます。安心して暮らせないことがどれほど怖いものか理解することは、生まれた時から守られることに慣れすぎた私には難しいことだと思いました。

フィリップ神父様は2005年のカシミール大地震についても話してくださいました。人の作った国境に関係なく自然の脅威は現れます。普段はあまり交流をしなかった人々も、地震が起きた時は生きるために必死になり、交通機関や電話の整備など、民族や宗教に関係なく人々が協力し合ったそうです。市民レベルの交流が始まれば政府も無視することはできません。大切なことはこれだと思いました。つまり、一つの建設的な方向性を持つ人間と人間との交流です。このことは私たちのいる状況でも同じように言えるのではないかと思います。カシミール問題の解決は容易なことではありません。しかし、両国の人々がもっと交流できるような機会、場所が増えれば、たとえそれが小さかったとしても大きな意味があるのではないかと思います。

南山大学・外国語学部英米学科 石田友美(2006FB041)

カシミール問題の概略

■1947年8月、イギリスがインドの植民地からの独立を認め、インドとパキスタンの2つの国が誕生したことに始まる。当時インド国内に565あった藩王国のそれぞれの藩王がどちらの国に帰属するかを決めなければならなかったが、ヒンドゥー教徒が多数の多民族、多宗教のインドと、イスラム教を国教とするパキスタンが同時期に独立したため、宗教的理由からイスラム教徒はパキスタンへ、ヒンドゥー教徒はインドへと移動を始めた。しかし、カシミール藩王は独立を考えていた。カシミール藩王はヒンドゥー教徒であったが、住民の80%はイスラム教徒という微妙な立場にあったからである。しかしながら、パキスタンが武力介入してきたことでカシミール藩王はインドへの帰属を表明し、インド政府に派兵を求めた。これが第一次印パ戦争の発端である。以後、第三次まで争っている。国境線付近では宗教的対立から、略奪、虐殺、レイプなどが多発し、犠牲者は30万人とも100万人とも言われている。この地域についてはパキスタンとインドが領有を主張し、これまで大小の軍事衝突を繰り返してきたが、現在はほぼ中間付近に停戦ラインが引かれている。パキスタンの実効支配地域はアザド・カシミールと呼ばれており、インドの実効支配地域はジャンム・カシミール州となっている。また、カシミール北東部、ラダック地方の東半にあたるアクサイチンは中華人民共和国に実効支配されている。



カシミール地域はインド、パキスタン、中国の国境付近に広がる山岳地方に位置します。カシミール最大の都市はスリナガルで、インドのジャンム・カシミール州の州都です。高級織物のカシミアはこの「カシミール」が語源です。

オリーブジャパン講座紹介

フラワーアレンジメント講座

★毎月一回 月曜日 夜19時より

★受講料：月額 3,000 円（材料費込み）

生け花はもちろん造花や話題のプリザーブドフラワーなど様々な花材を使い楽しくお花に親しめます。講師はフローリスト（フラワーリフレ主催）として活躍中の深田久乃先生です。アレンジのテクニックはもちろん、プロならではののお花にまつわる様々な話を聞けることも魅力です。

取材：仲村文子



深田久乃先生より一言

なによりも生きている花を見て、季節を感じながら気持ちをリラックスして楽しんでほしいです。花の生け方に決まりはなく、いろんな種類の花材を使うので楽しんでもらえると思います。自分で道具を一式そろえる方もいます。私自身も一人一人個性的なアレンジがみられて刺激になります。

先生の作品はホームページでご覧になれます。

<http://www14.plala.or.jp/flower-refre/>


和気あいあいとした雰囲気の中、それぞれ自分の思う世界を作り上げていきます。そこに先生のちょっとした手直しが加わるとパッと世界が変わります。それが最大のおもしろみであり、感動です。みんな同じ花材を使っても、それぞれ全然違うアレンジになるので他の方の作品を見るのも楽しみです。初心者の方でも先生が丁寧に教えて下さり、授業の中の雰囲気も温かく、新しい生徒さんがどんどんいらっしゃいます。そうするとその方の違ったアレンジが見られて、みんなの楽しみとなります。自分も楽しさを体験でき、また人にも楽しさを与えられるのがこの教室のすばらしい点です。一度参加すればこの楽しさが分かり、毎月必ず通いたくなる大切な場所になるのだと思います。

参加生徒：森 綾子

その他文化講座

■洋画講座■

この講座では、パステル、油絵、水彩などいろいろな道具、材料を使いながら好きな物を自由に描きます。ただ物をそのまま写したり、上手に描いたりすることではなく、自分の中にある何かを表現することを大切にしながら絵画の楽しさを学びます。

◆第3・4土曜 PM17:30-

月額 4000 円

■イタリア料理講座■

この講座では、簡単に手に入る食材を使って、南イタリアのお母さんの家庭料理を学べます。レシピはアグロポリ（イタリア、カンパーニャ州サレルノ県）のお料理の得意なお母さんたちからの直伝です。太陽の恵みがいっぱい、おいしくて、本には載っていない本格派料理を紹介します。

◆毎月一回 日曜 PM13:00-

材料込み 6000 円

■イタリア語講座■

経験、個性豊かな先生による楽しいイタリア語教室。この教室では、言葉だけではなく、生きているイタリアの文化を学べます！講師は16年間イタリアに在住され、建築家の篠田先生。現在通訳第一人者の柴田先生。サレルノ大学博士課程卒業、イタリア人のジュセッペ・デ・マルコ先生

◆第1・3火曜・2金曜 PM19:00-

一般 7,500 円 学生 1,500 円（1クラス）

■オリーブジャパン文化講演会報告■



カシミール問題

(KASHMIR CONFLICT)

2007年11月24日(土) 10:00-12:00

ナディアパーク・デザインセンタービル9F
名古屋青少年文化センター・第2研修室にて

ーフィリップ・マッテュ神父様を招いてー



私はこの講演を聴くまでカシミール問題についてよく理解していませんでした。「カシミール」と聞いてすぐ思い起こすことは、あの柔らかい手触りの「カシミヤセーター」くらいです。しかし、この地域は長い間、インドとパキスタンの対立によって大変な経験を強いられていることを知りました。

1947年にイギリスから独立したインドとパキスタンは、当初から対立を続けており、1948年には北西部のカシミール地方の領有をめぐる武力衝突しました(第1次インド・パキスタン戦争)。その後、国連の仲介によって停戦に至りましたが、カシミール地方は分割され、さらに1965年には再びカシミール地方をめぐる戦争が行われました(第2次印・パ戦争)。このような過酷な状況の中で何よりも悲惨なことは、当のカシミールに住む人々の思いが常に無視され続けているということです。その後も戦争は続き、1971年にはパキスタン内部において東西間の亀裂が深まり、パキスタン、バングラデシュと分離独立することになりました。このような対立の中で実際に戦場となったのは予期できない紛争やテロの恐怖に怯えながら暮らす一般市民の土地でした。そこには活気に溢れた市場、学校、病院など、人々の暮らしがありますが、戦争はそのような場所を一気に破壊してしまいます。安心して暮らせないことがどれほど怖いものか理解することは、生まれた時から守られることに慣れすぎた私には難しいことだと思いました。

フィリップ神父様は2005年のカシミール大地震についても話してくださいました。人の作った国境に関係なく自然の脅威は現れます。普段はあまり交流をしなかった人々も、地震が起きた時は生きるために必死になり、交通機関や電話の整備など、民族や宗教に関係なく人々が協力し合ったそうです。市民レベルの交流が始まれば政府も無視することはできません。大切なことはこれだと思いました。つまり、一つの建設的な方向性を持つ人間と人間との交流です。このことは私たちのいる状況でも同じように言えるのではないかと思います。カシミール問題の解決は容易なことではありません。しかし、両国の人々がもっと交流できるような機会、場所が増えれば、たとえそれが小さかったとしても大きな意味があるのではないかと思います。

南山大学・外国語学部英米学科 石田友美(2006FB041)

カシミール問題の概略

■1947年8月、イギリスがインドの植民地からの独立を認め、インドとパキスタンの2つの国が誕生したことに始まる。当時インド国内に565あった藩王国のそれぞれの藩王がどちらの国に帰属するかを決めなければならなかったが、ヒンドゥー教徒が多数の多民族、多宗教のインドと、イスラム教を国教とするパキスタンが同時期に独立したため、宗教的理由からイスラム教徒はパキスタンへ、ヒンドゥー教徒はインドへと移動を始めた。しかし、カシミール藩王は独立を考えていた。カシミール藩王はヒンドゥー教徒であったが、住民の80%はイスラム教徒という微妙な立場にあったからである。しかしながら、パキスタンが武力介入してきたことでカシミール藩王はインドへの帰属を表明し、インド政府に派兵を求めた。これが第一次印パ戦争の発端である。以後、第三次まで争っている。国境線付近では宗教的対立から、略奪、虐殺、レイプなどが多発し、犠牲者は30万人とも100万人とも言われている。この地域についてはパキスタンとインドが領有を主張し、これまで大小の軍事衝突を繰り返してきたが、現在はほぼ中間付近に停戦ラインが引かれている。パキスタンの実効支配地域はアザド・カシミールと呼ばれており、インドの実効支配地域はジャンム・カシミール州となっている。また、カシミール北東部、ラダック地方の東半にあたるアクサイチンは中華人民共和国に実効支配されている。



✂ カシミール地域はインド、パキスタン、中国の国境付近に広がる山岳地方に位置します。カシミール最大の都市はスリナガルで、インドのジャンム・カシミール州の州都です。高級織物のカシミアはこの「カシミール」が語源です。

オリーブジャパン活動報告

クリスマスチャリティーコンサート

昨年12月23日(祝)にクリスマスチャリティーコンサートを行いました。出演はコーラスアンサンブルみわの会(細谷和子氏主宰)をはじめ、大竹由紀子さん(ライア・オカリナ)と小石亜希子さん(声楽)のコラボレーションによる歌やソロ演奏を楽しみました。このコンサートの収益金は約4万円となりました。ご来場くださいました皆様心から感謝申し上げます。



(第1部) クリスマス曲やわらべ唄を歌う、みわの会の皆さん



(第2部) 大竹さんの演奏に合わせて歌う小石さん

演奏者の方々には無償でご出演いただいたことを心から感謝いたします。

特別 イタリア料理講座

2008年1月12日(土)にオリーブジャパンイタリア語講師の篠田望先生プロデュースによる「特別イタリア料理講座」～ベネチア郷土料理編～が行われました。講師に今年もロベルト・リッツィアルディーニ先生を迎え、かぼちゃのリゾット等のベネチア料理を教えてくださいました。イタリア語も飛び交う国際色豊かな楽しい料理講座となりました。この講座の収益金は約6万円でした。ご参加くださいました皆様に心から感謝申し上げます。



料理を教えるロベルト先生



無償で講座協力をしてくださったロベルト先生と篠田先生に心から感謝いたします。

これら活動の収益金は、すべて「みつばち保育所」の運営費として送らせていただきました。

*お問い合わせは、下記連絡先まで。

年4回発行 「オリーブ・プレス」 Vol.9 2008年3月1日(土)発行
発行 オリーブジャパン国際開発協力協会 olivejapan80@hotmail.com